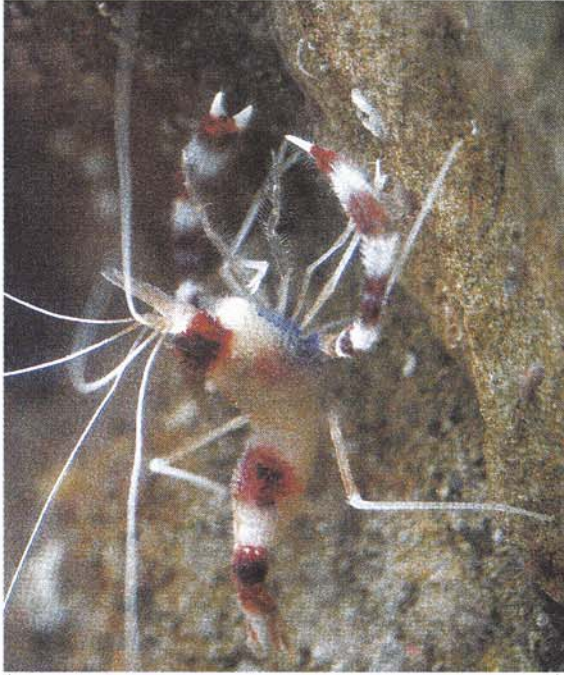


# いろいろなエビ類

# 水族館へ行こう！

## 京都大学白浜水族館



前から3番目の足が大きくなるオトヒメエビ  
(水槽番号203)

エビと呼ばれるものが、実は異質のものが寄せ集めであることをご存じだろうか？

白浜水族館では、クルマエビ類、オトヒメエビ類、イセエビ類、テナガエビやヌマエビなどが含まれるコエビ類などが常時展示されている。時には、それぞれ独立した分

# 大和茂之

類群を構成し、カニ類やヤドカリ類と同格の分類群として扱われる。

では、それぞれのエビ類の間でどのような違いがあるのだろうか。例えば幼生が違っている。ク

で、それぞれのエビ類の間でどのような違いがあるのだろうか。例えば幼生が違っている。ク

# エビの腹部はなぜ長い

クルマエビ類では、卵を腹部に抱えず水中に放出し、ノープリウス幼生でふ化する。この幼生は甲殻類の最も基本的な幼生で、足が3対しかない。他のエビ類では、雌の腹

だ。クルマエビ類では前の3対がはさみになり、後ろの3対はくはならない。オトヒメエビ類では前の3対がはさみになり、前から3番目の足が大きくなる。コエビ類では前の2対がはさみになり、1番目か2番目の足が大きくなる。イセエビ類ではどの足も

過去にエビのことを長尾類と呼んだのは、長い腹部に注目したからである。しかし、長い腹部はエビ以外の甲殻類でも見られる。一方、カニ(短尾類)やヤドカリ(異尾類)は、後退するための長い腹部をなくしてしまったグループということになる。(京都大学助教)

はさみになり、エビ類がどちらの方向に逃げるか観察したことがあるだろうか。エビを捕まえると、尾をばたばたさせるが、これは逃げるときの動作でもある。尾部を扇状に広げて、腹部を瞬発的に折り曲げることによって、後ずさりする。